

JESCO 事業に関する報告書の作成について

(これまでの取り組みと今後の取り組み)

1. JESCO 事業報告書について（位置づけと目的）

JESCO の事業報告書については、高濃度 PCB 処理事業の操業記録として、事業の経緯（立ち上げ/安定操業/事業の締めくくり）、処理実績や各種の取り組みを体系的に整理し、公式記録として情報公開し後世に残すため取り組んでいるところである。

当報告書が目的とするところは、将来の同種事業や類似プロジェクトに対して、有意な参考情報となるように、JESCO が試行錯誤の中で構築してきた各種モデル・仕組み・技術、その他蓄積してきた知見（例：リスクコミュニケーション、環境対策、安全対策、作業環境等）について、事業所ごとの取り組みが比較可能な形で参照できるよう総括していくところにある。

2. これまでの取り組み

令和 7 年 3 月 25 日に開催された PCB 廃棄物処理事業検討委員会において、報告書は「事業別版」と「本社共通版」を作成されるべきことが示された。

また、令和 7 年 11 月 21 日に開催された同委員会においては、JESCO 本社が作成する「本社版の目次案」とともに、各事業所が作成する「事業所版（事業別）の標準目次案」のご審議をいただき、事業報告書作成スケジュール等と伴にご確認及びご了承をいただいたところである。

その後、令和 8 年 1 月 21 日に開催された北九州事業部会、令和 8 年 2 月 5 日に開催された大阪事業部会、令和 8 年 3 月 2 日に開催された豊田事業部会においては、各事業所報告の目次案が審議され了解をいただいた。

3. 今後の取り組み

西日本の各事業部会でご承認を得た事業所目次案に基づき、まず、北九州事業所報告書については先行モデルとして令和 8 年度中に完成させることを目指し、鋭意作成を進めているところである。

実際に報告書作成を行っていくなかで、当初の標準目次案で想定した項目の観点は網羅させつつも、文脈の流れから統合又は分離した方が適切と判明した部分については、目次案の改善を一部行っており、これを標準目次案に反映させてい

る（別紙１，２）。

北九州事業所報告書（先行モデル）の書きぶりと整合性をとる形で、大阪事業所報告書と豊田事業所報告書についても段階的に完成に向けて取り組みを進めていく。JESCO 本社は、各事業所報告書作成に伴走しつつ適切な支援を行っていく。特に、各事業の初期関係者へのインタビューを積極的に実施し、補完情報についても収集していく。また、本社共通版報告書についても準備が整った項目から適宜検討と作成を進めていく。

そして、令和７年度末で処理完了済の東京事業所と北海道事業所についても、報告書作成に向けて事業所の制作体制を構築し、事業所年表及び事業所目次案の作成から取りかかっていく予定である（別紙３）。

以 上